



密集住宅地の中で、落ち着いた生活空間を確保するため、木に開いた「洞（うろ）」のような住宅を計画した。隣地に面した外壁には窓を設けず、敷地の角に面してのみ窓を設けることで隣地に建物が隣接しても光と風が抜ける計画としている。建物の特徴となる窓のない大きな壁は自然素材由来の外壁とすることで、素材の経年変化を楽しめるキャンパスとしている。コーナーの主要開口部は高さ約8mの巨大な縦連窓としているが、外部に斜めにカットした外壁を重ね、通りの視線をカットしつつも室内からの視線は空に広がるデザインとしている。この外壁は遮風板にもなり、市街地の複雑に吹き込む外部風を制御し、室内に穏やかな空気の流れを作り出している。内装は、壁・天井を建築の構造体となっている構造用合板に木材保護着色ステインを施すのみとし、木造建築そのままの“木”に包まれる空間としている。その他、無垢フローリングや木毛セメント板の天井、ベニヤの家具など、素材そのものが現れた内装とし、住人とともに年を刻む住宅としている。

